

大阪府立布施工科高等学校 令和7年度 学校教育自己診断の結果と分析(令和7年12月実施)

【学校生活】「学校が楽しい」

肯定的評価

	R5	R6	R7	±
生徒	79 %	82 %	74 %	-6
保護者	82 %	80 %	78 %	-2

□日頃の学校生活において、生徒・保護者ともに肯定率が低下し、80%を下回る結果となりました。次年度は3年生のみの1学年体制となります。授業や資格取得、課外活動、学校行事を通じて「学校に来るのが楽しい」と思える魅力的な取り組みを実施していきます。

【学習指導】「わかる授業」

肯定的評価

	R5	R6	R7	±
生徒	85 %	85 %	81 %	-4
教職員	98 %	92 %	98 %	+6

□教員同士の授業見学や研究授業を通じて教材研究を行い、授業の工夫・改善に取り組みました。一人一台端末を活用した授業により、生徒の理解度に成果が表れています。今後も継続的に「わかりやすい授業づくり」を推進し、生徒の成長を促していきます。

【生徒指導】「適切である」

肯定的評価

	R5	R6	R7	±
生徒	81 %	84 %	82 %	-2
保護者	86 %	86 %	89 %	+3

□本校の生徒指導が「適切である」という理解は80%以上得られています。今後も生徒の成長を支援する声掛けを行い、保護者との連絡を密にしながら、より一層個々の生徒に合わせた丁寧な指導を行っていきます。

「納得できる」

肯定的評価

	R5	R6	R7	±
生徒	84 %	83 %	86 %	+3
保護者	85 %	86 %	88 %	+2

□「生徒指導について納得できる」という評価は、生徒・保護者ともに80%以上を維持しています。定期的な集会での注意喚起に加え、ホームルームを通じて本校の方針を説明し、生徒の理解を深めています。今後も生徒・保護者の理解のもと、社会でのマナーやルール遵守の重要性について日常的に指導・支援を行っていきます。

【キャリア教育】「インターンシップ等の取組み」

肯定的評価

	R5	R6	R7	±
生徒	72 %	73 %	80 %	+7
保護者	96 %	95 %	96 %	+2

□ 今年度のインターンシップは、2年生全員が参加することができました。学校外での実践的な学びが肯定的評価の増加につながり、将来の働き方や生き方を考えるきっかけとなったと考えられます。デュアルシステムの本格始動から2年目を迎え、生徒への声掛けや指導方法も改善されました。次年度も地域産業について学ぶ取り組みを継続します。

【進路指導】「職業観・勤労観の育成」

肯定的評価

	R5	R6	R7	±
生徒	91 %	95 %	92 %	-3
保護者	93 %	93 %	96 %	+3

□ キャリア教育の積み重ねや実習等の取り組みにより、肯定的評価は90%台を維持しています。引き続き、望ましい職業観・勤労観の育成を個々の生徒に合わせて丁寧に行っていきます。

【人権教育】「学ぶ機会が多い」

肯定的評価

	R5	R6	R7	±
生徒	92 %	95 %	96 %	+1
教職員	81 %	86 %	87 %	-1

□ 人権教育は、あらゆる教育活動の基盤です。ホームルームや行事を通じて生徒への人権教育の機会を設け、90%以上を維持しています。今後も定期的な人権教育活動を通じて、互いの違いを認め合い、共に学ぶ学校づくりを推進していきます。

【いじめ】「いじめ対応」

肯定的評価

	R5	R6	R7	±
生徒	90 %	91 %	88 %	-3
教職員	94 %	78 %	80 %	+3

□ 「いじめは絶対に許されない」という意識を学校全体で醸成し、「いじめ見逃しゼロ」をめざして未然防止策と人権指導を実施しています。今年度は、生徒・教職員ともに80%以上の肯定的評価を得ています。定期的なアンケートを実施し、生徒一人ひとりを丁寧に見守り、小さな兆候を早期に検知できる体制を整え、「安全で安心な学びの場」を学校全体で築いていきます。